

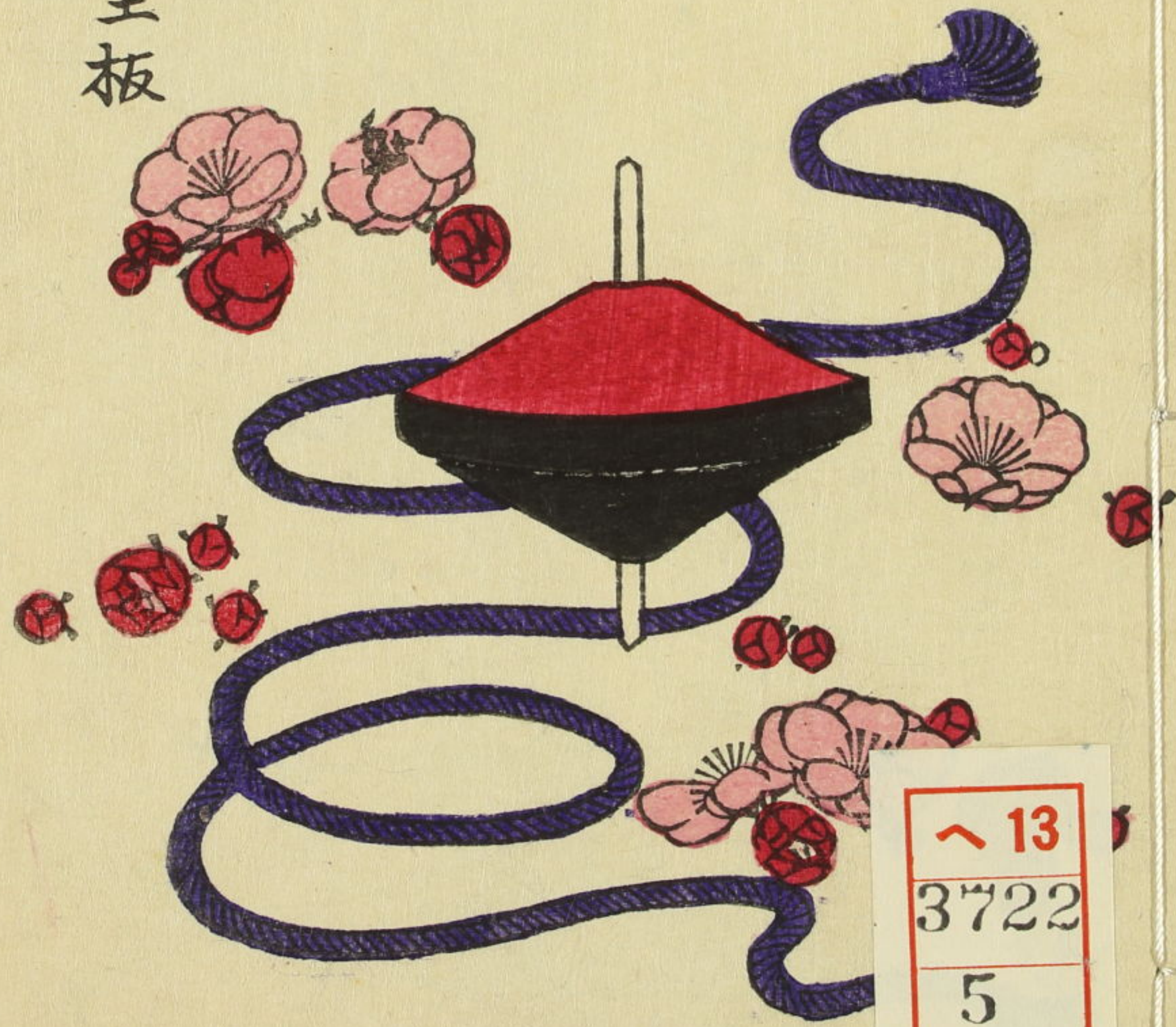
御所櫻梅松

録茅 三篇

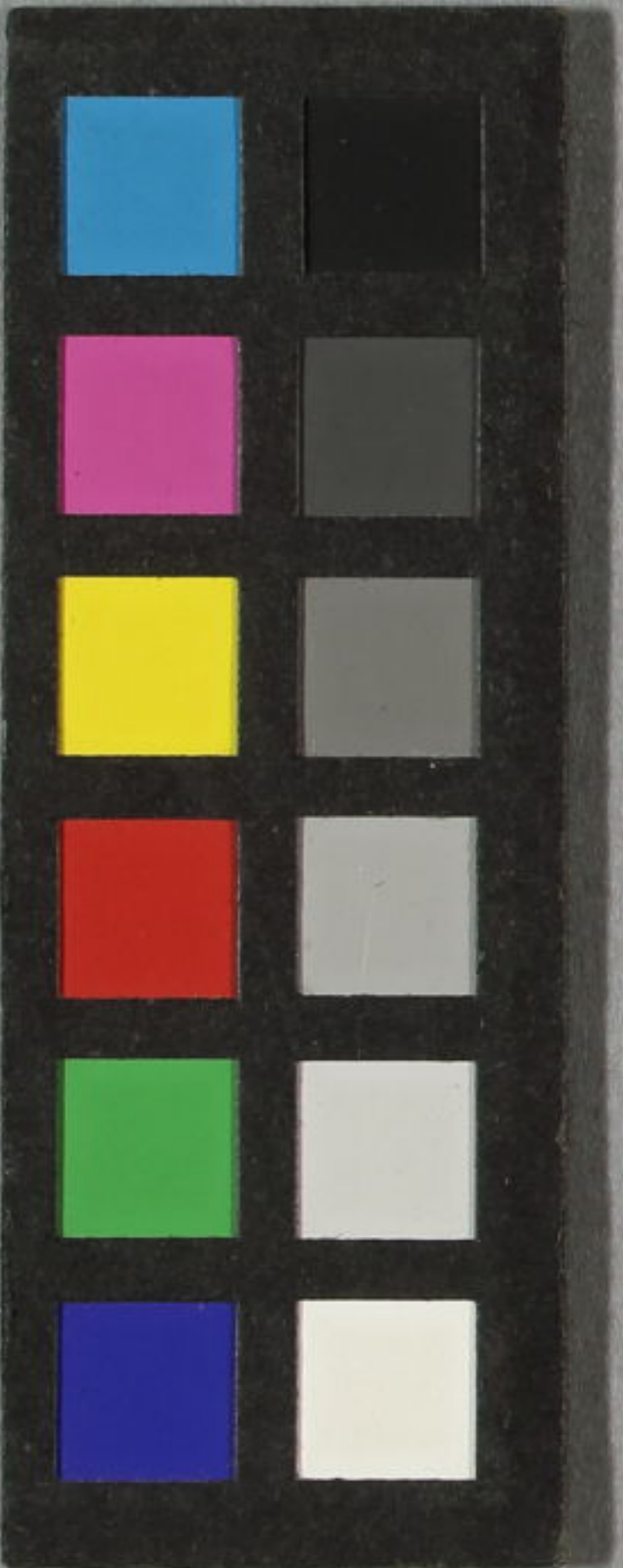
山之尊者人作

孟奇芳虎画

錦龜堂板



~ 13
3722
5





御所櫻

梅
松
録

ま
ま
ま
ま

明へ13
3722
巻

海所桜梅松録第三編上巻

鶴

秀賀作

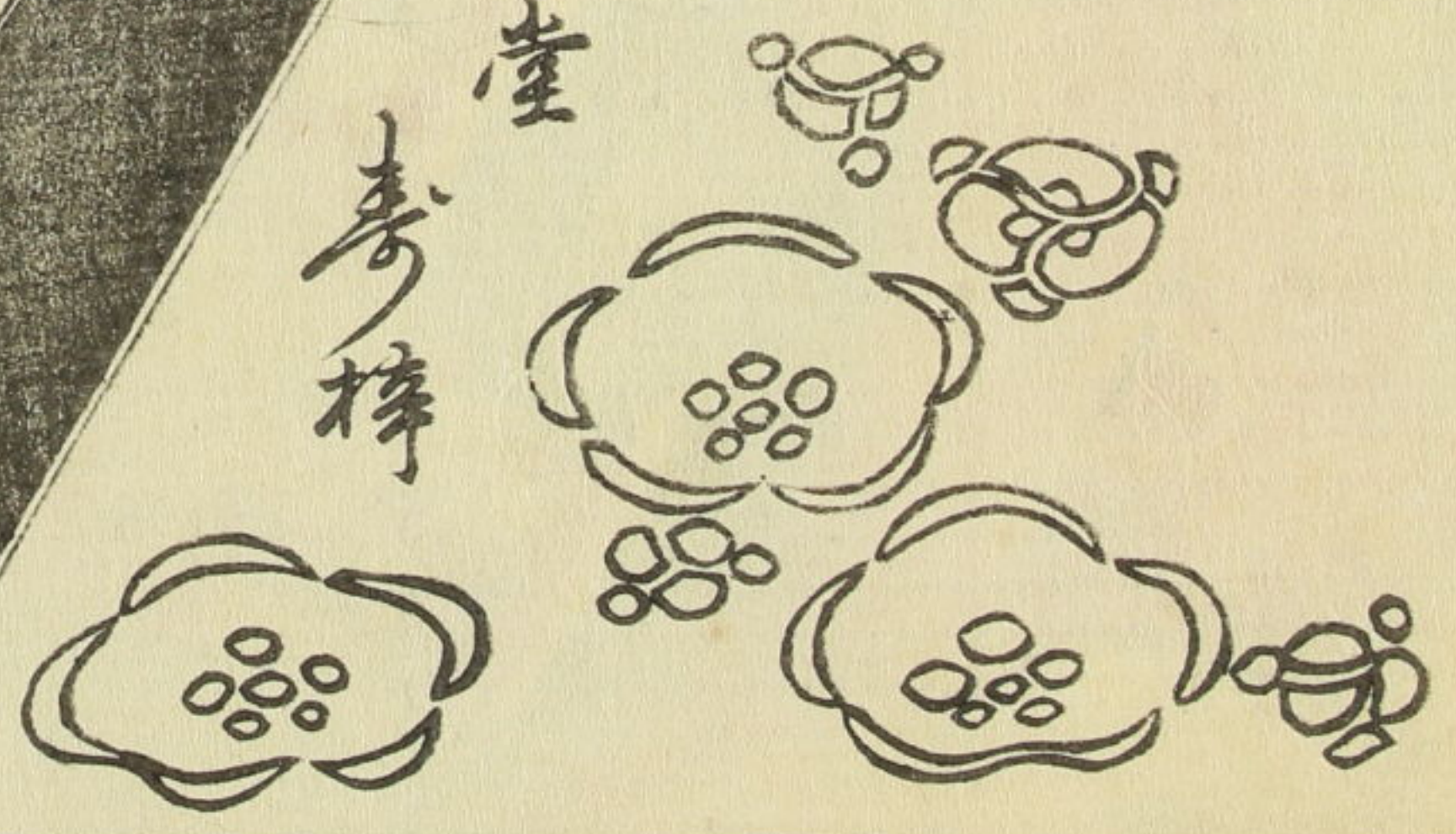
海

國貞画

海

産

秀梓

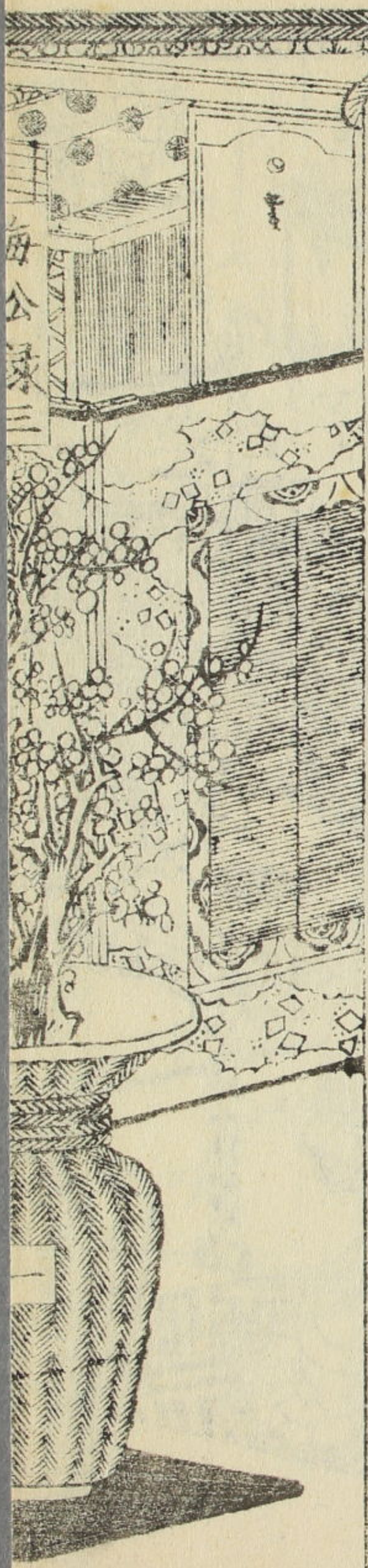


蒼頡ハ鳥跡を視て鳥書を制シ。史竹擗ハ竹葉を視て竹書を作る。夫ハ異邦の季
の起原我 皇朝ハ神代の節既ニ結繩の文字あり。八重垣つる敷嶋の道弘あり。ハ
假名四十七字の出来し。今其假名史ハ綴リハ仰バ高き菅公の御名を假て
假初の神史中ニ專ニ編ト。卷を重シ其端ハ些少文字の濫觴と辨ズと爾云
萬延元庚申仲秋稿成
同 二辛酉孟春發市

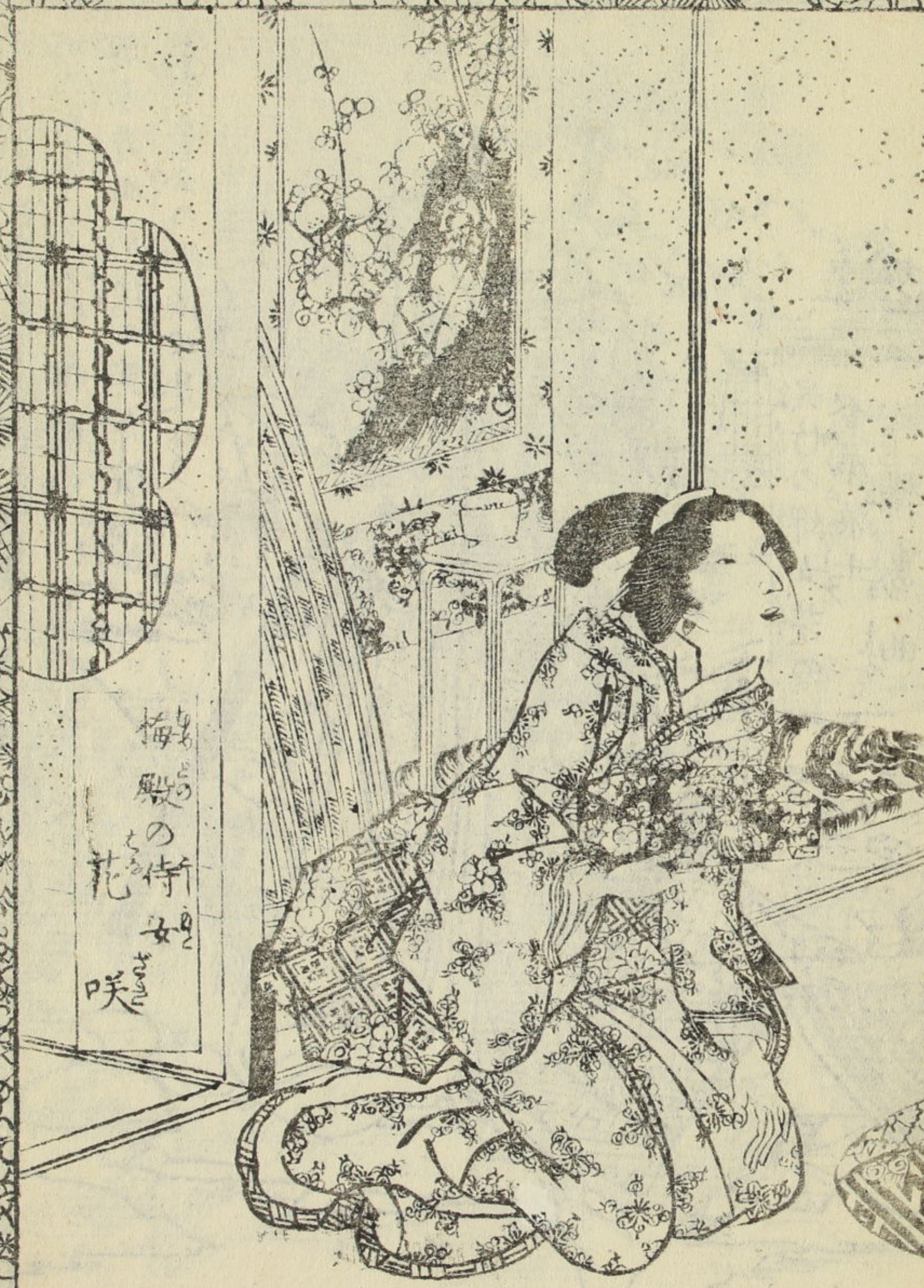
鶴亭秀賀誌



私のけり花をん乃くもふくく
心我のまればや 是善

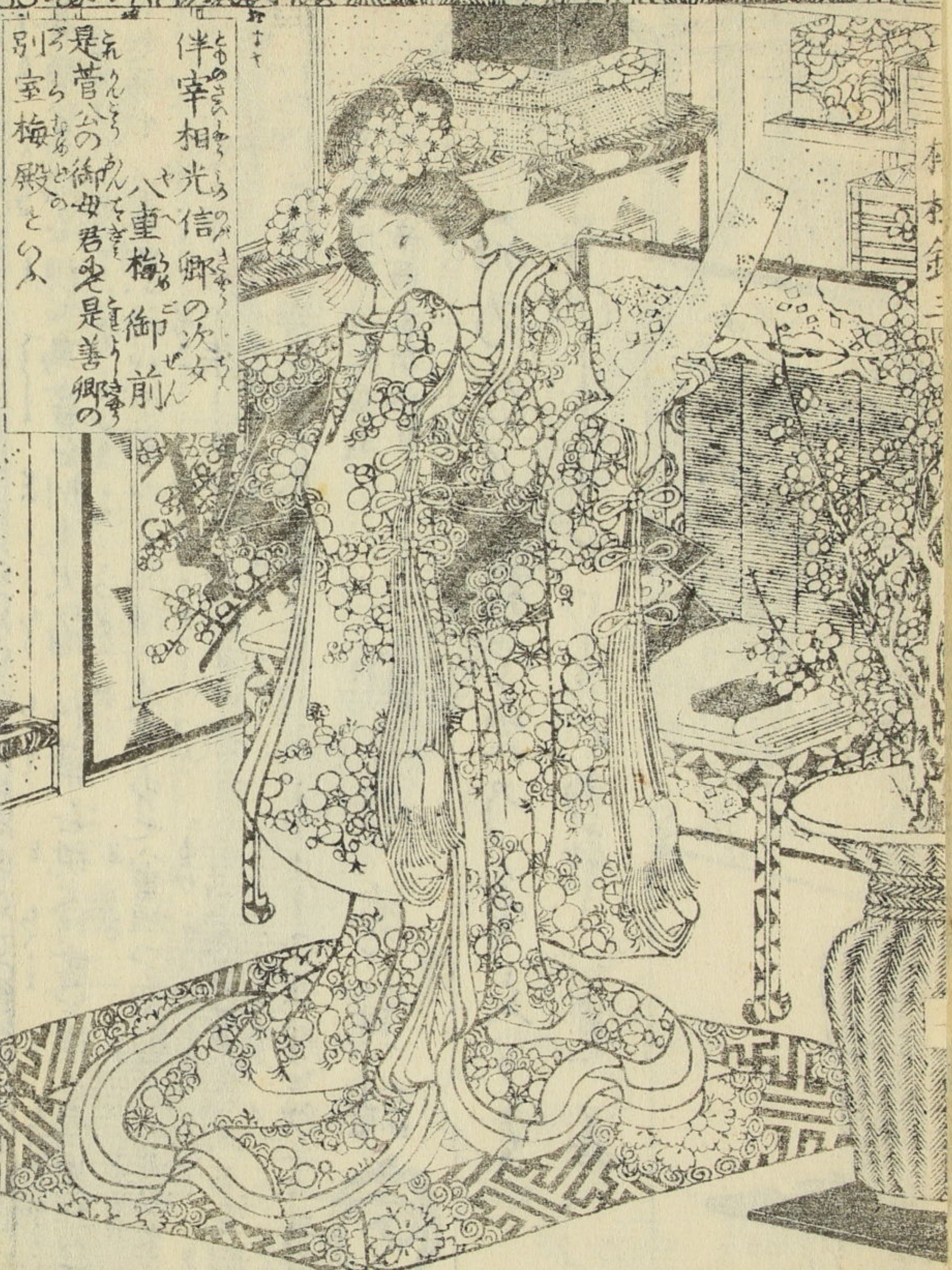


海公録三

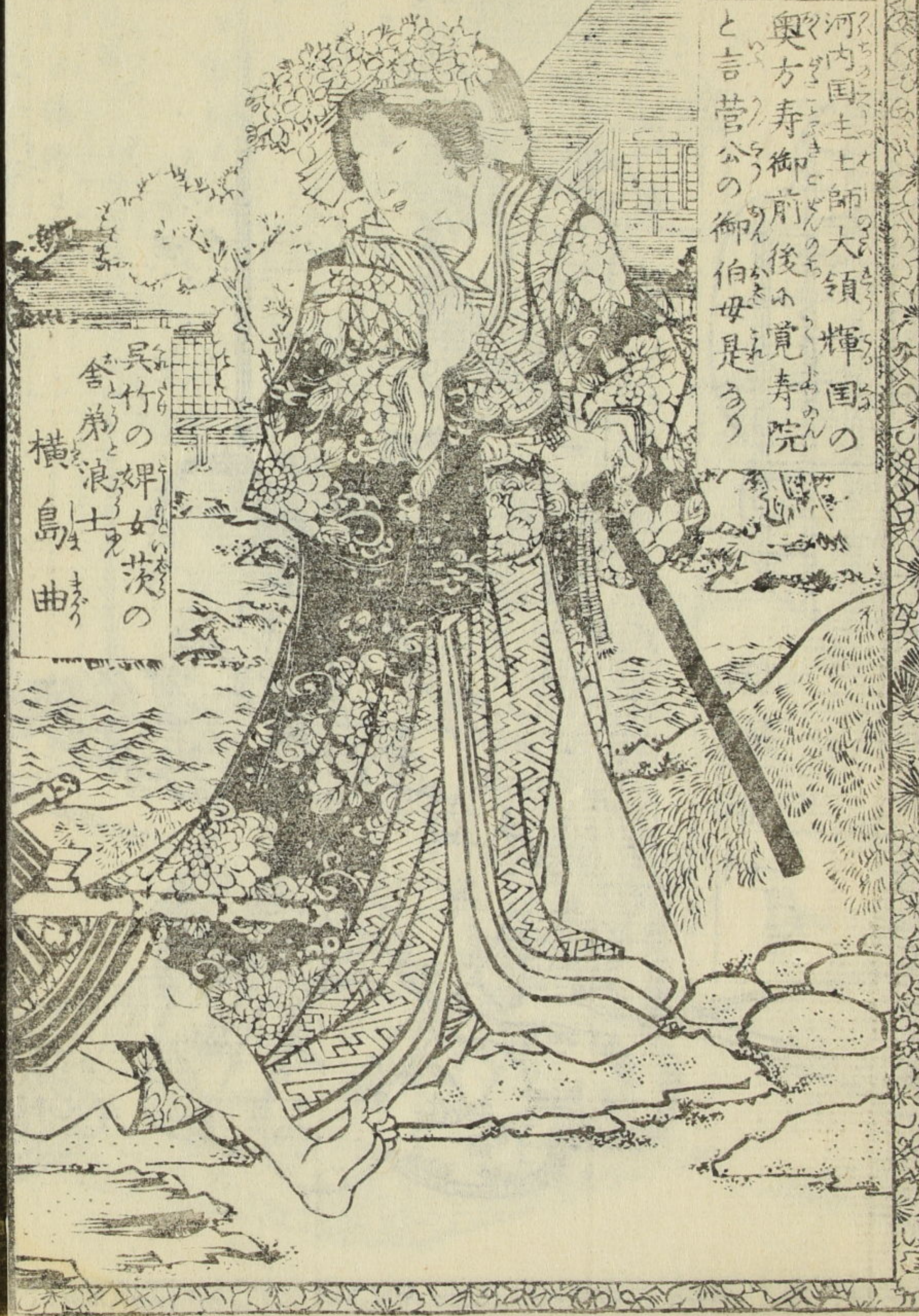


梅殿の侍女
咲

伴宰相光信卿の次女
重櫛御前
是昔の御母君也是善御の
別室梅殿といふ



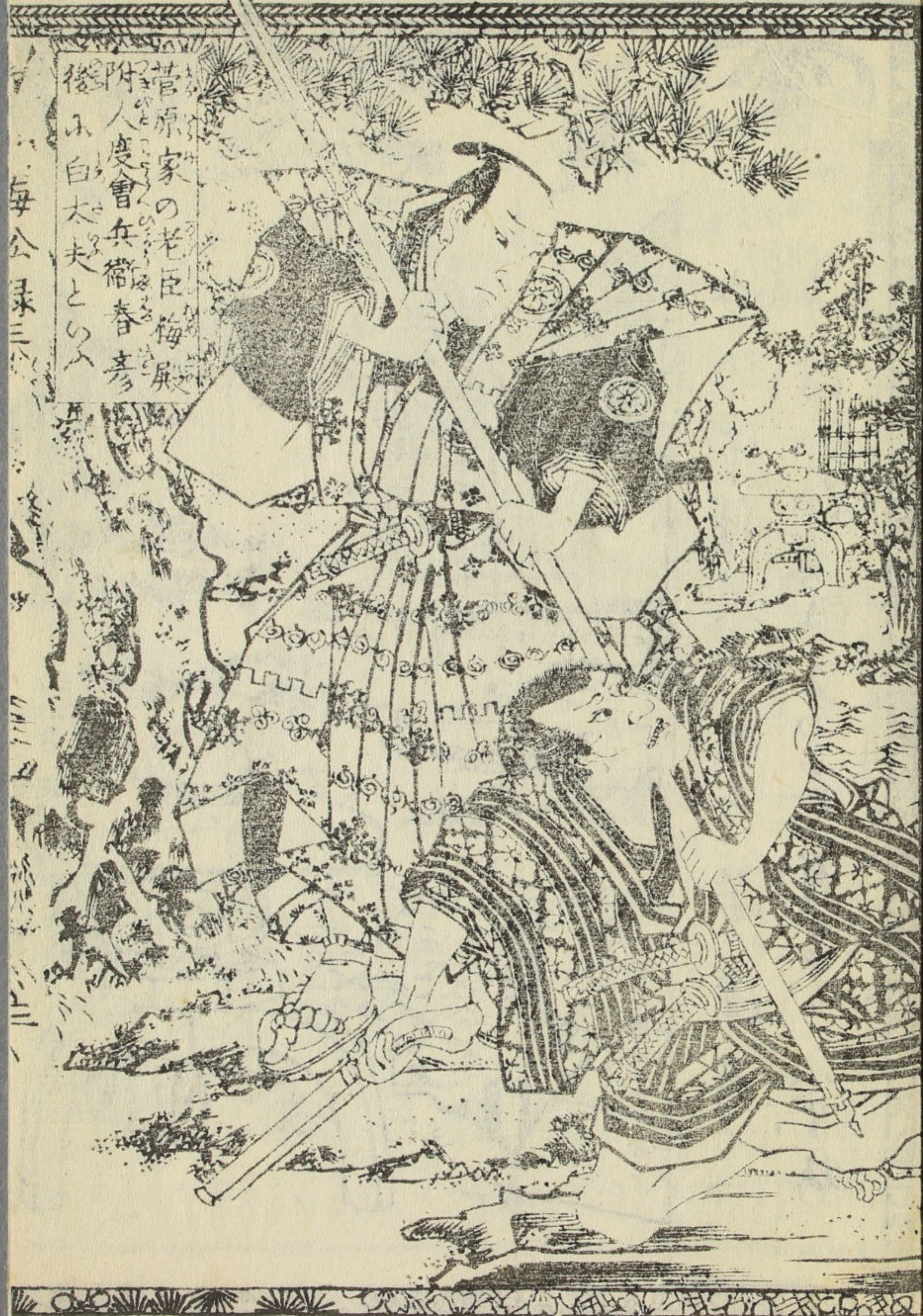
河内国主七師大領輝国の
奥方寿御前後の寛寿院
と言菅公の御伯母是なり

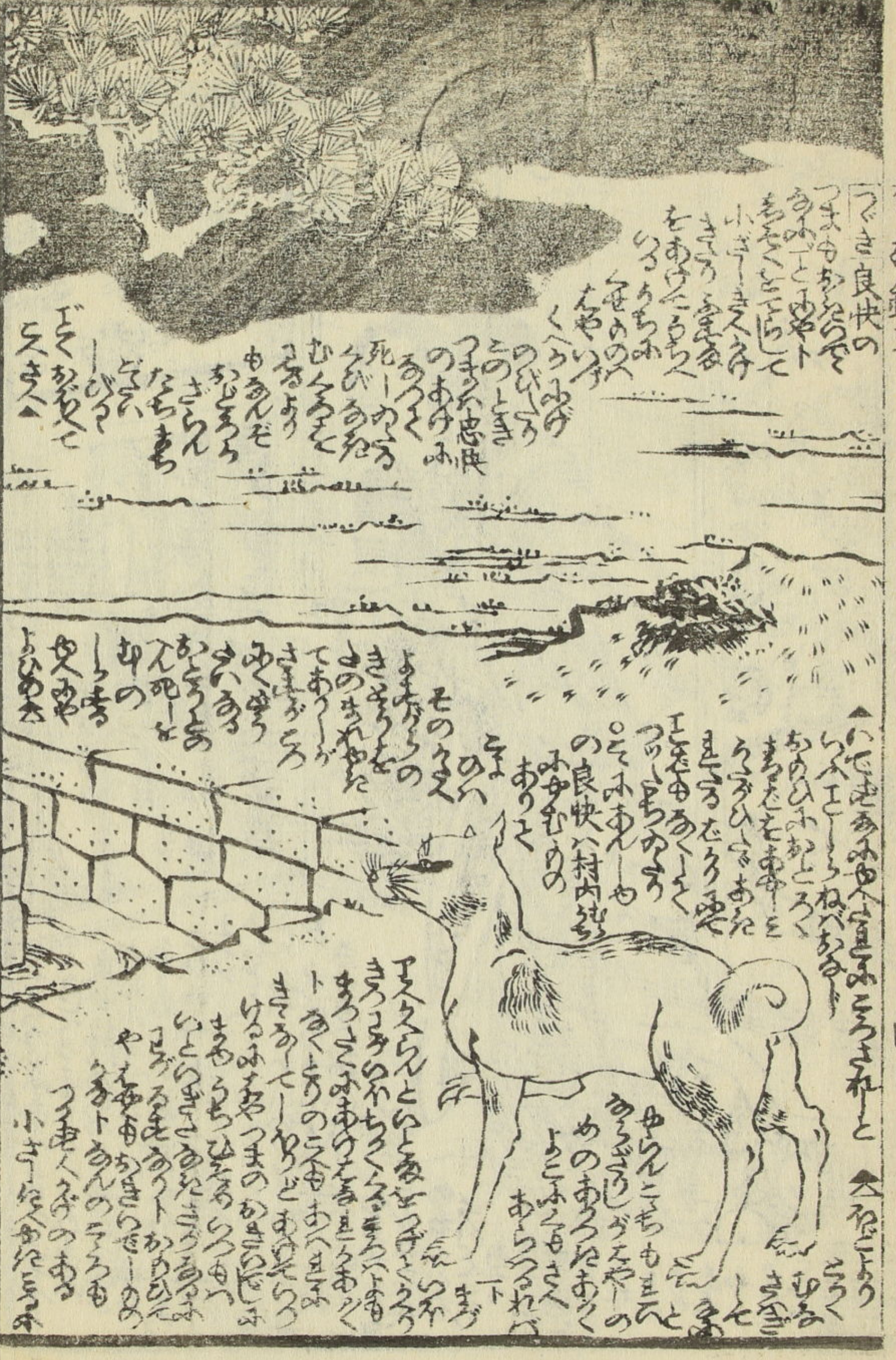
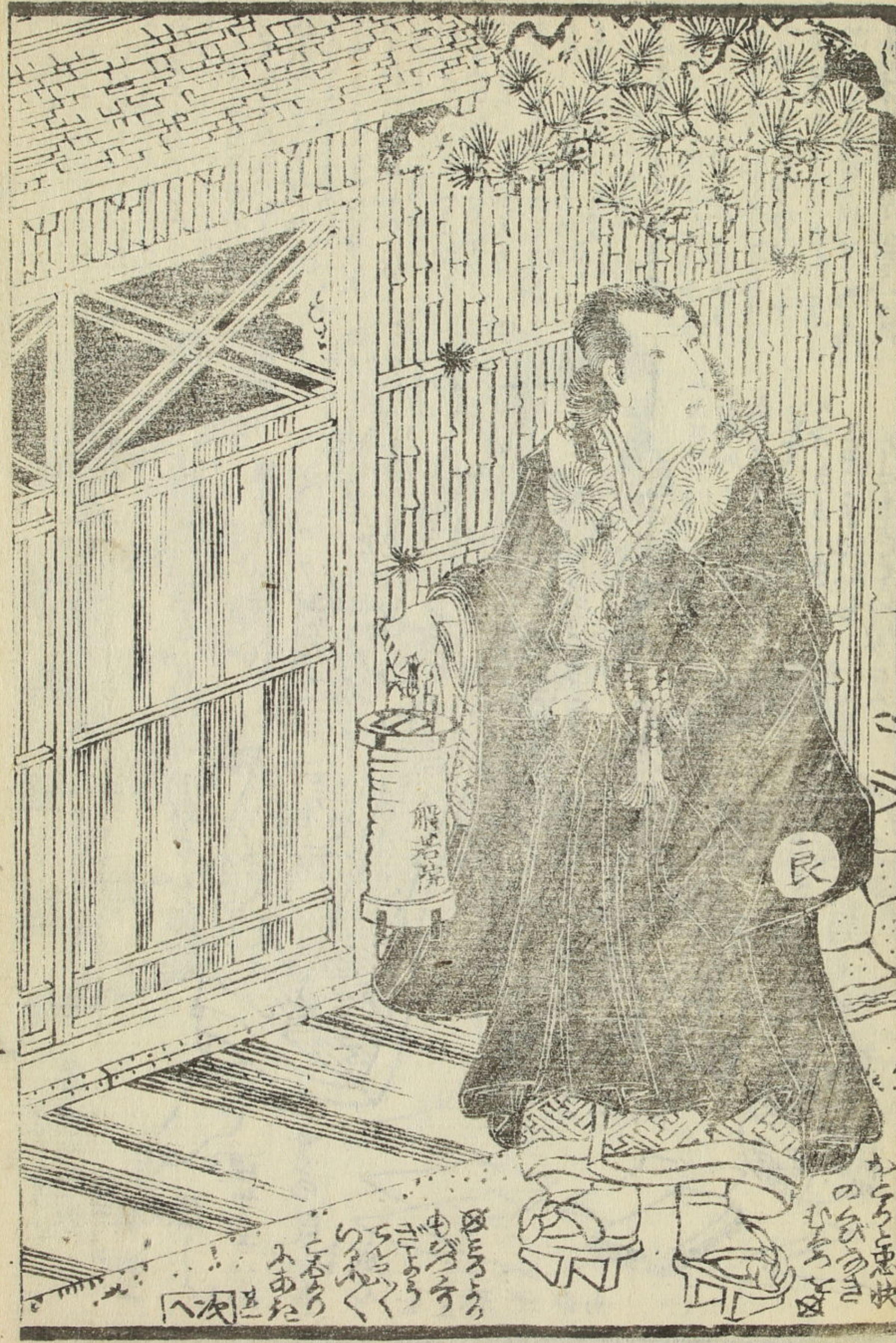


兵竹の婢女茨の
舎弟浪士横島曲

菅原家の老臣梅原
附人度會兵衛春彦
後小白大夫といふ

毎公録三





梅松録

つぎ良快の
つまかちのぞ
あつたこも
おもてとて
小きくまを
まきりまを
をあげこも
ひらちか
なむり
くちか

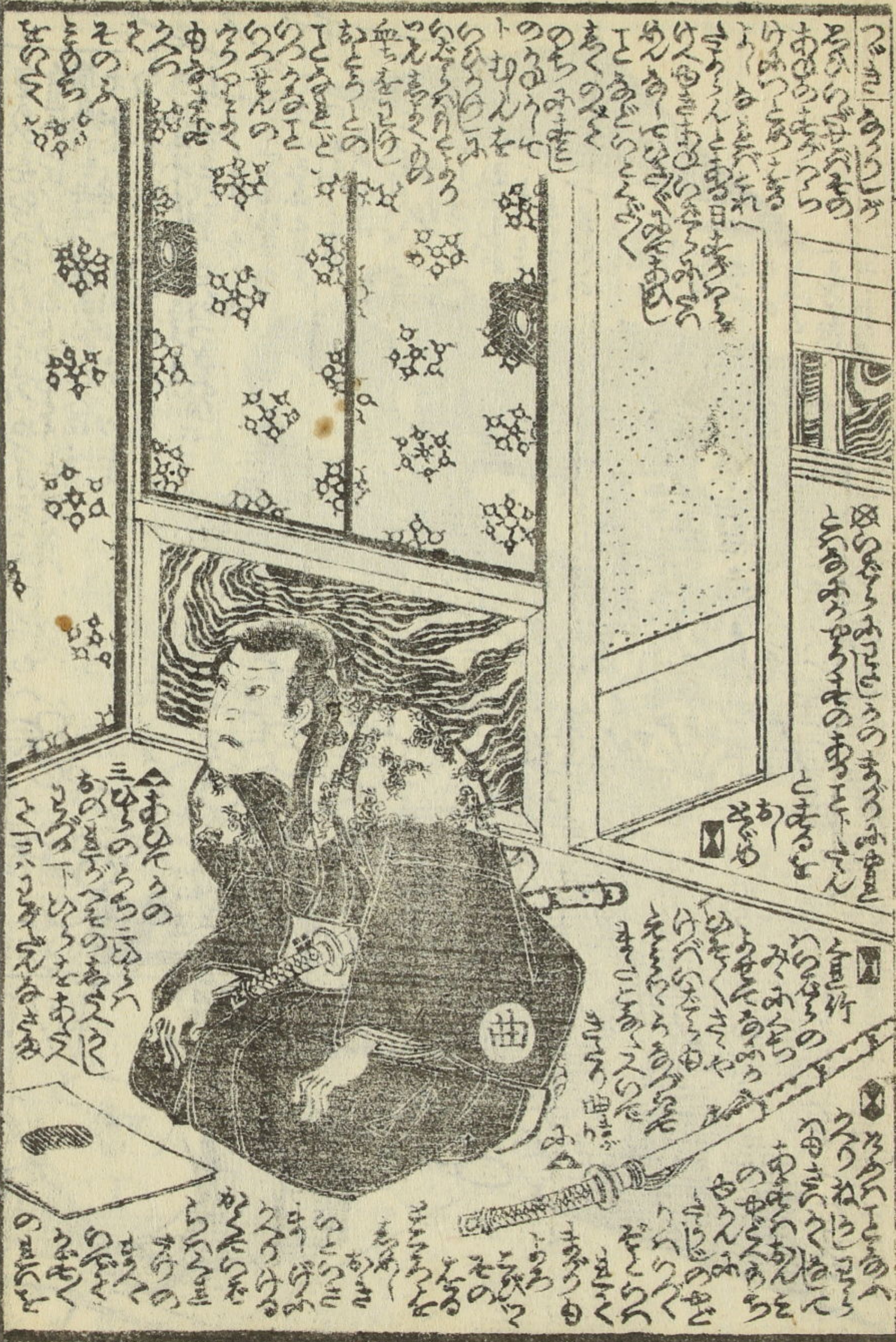
このとき
つまかちの
のあつた
あつた
死にた
なむり
むらり
もあん
おんち
さかん
なま
なま
なま
なま

そのとき
よまかち
まきり
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

つぎ良快の
つまかちの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの

つぎ良快の
つまかちの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの

良快の
つまかちの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの
あつたの



社
三
三

本
金
三

秀賀作の

梅村録三



國貞畫

島	鮮	堂	畫	帖	折	本	錄
善惡教訓圖解	大日本神社佛閣全	東海道五十次全	德川年代記事全	古今名婦傳全	花鏡東京名所全	龜地本錦繪問屋	島鮮堂・網島龜吉
上 藤	下 藤	種 房	種 房	種 房	種 房	種 房	種 房
善惡雅文訓全	俳優忠臣藏全	花鳥かぶ美全	寄籠之國全	命養生善惡鏡全	開化東京名所全		

